

防災マップ作成 進め方

日本防災士会・岡山県支部

防災マップってなに?	「防災マップ」は、自然災害に対して住民が安全に避難し生活するために必要な情報を集めた地図。住民が作成し地区で共有します。 「ハザードマップ」は、主に自然災害の被害予想地図のことで、自治体が作成し市民に配布します。
防災マップ作りの目的	1. 災害時わが街の強さと弱さに気づき住民で共有する。 2. 被害予測と照合し安全な避難計画を策定する。 3. 協力して避難生活を送れる為の基本情報になります。
被害想定	この地区で起こりうる災害の内、今回の災害のテーマを決める 避難所生活に関わる事や火事なども共通性が高いとみて含める。
班の結成	防災マップ作成対象地区ごとに班を割り当てる
主な役割	班長、カメラ、アシスタント、撮影記録、地図記録
まちあるき	役に立つもの、危険なもの、その他を点検し記録する
地図にまとめ	大きな地図にまとめる。写真印刷、色分類、写真番号と名称を記載、地図上に写真番号を書き込む。 地図の色分け。(河川、池、道路、鉄道など)
班で意見交換	避難所、避難ルート、通行禁止ルートの検討 お勧め避難ルートの検討 もしここが被災したらという DIG 的観点でのシュミュレーション 地域の強みと弱みの分析
班単位に発表	

防災マップ作成 チェックポイント

【役に立つもの】

日本防災士会・岡山県支部

No	分類	具体例
1	人が集まれる場所	学校、集会所、公民館、公園。広場、神社、寺、駐車場
2	火災消火	防火水槽(水)、消火栓(栓)、ホース収納庫(ホ)、消防団詰所
3	何か調達できそう	自動販売機(自)、お店、企業、工場
4	医療関係	病院、医院、薬局、AED
5	防犯、防災	交番、警察署、消防署、市役所、防災倉庫
6	生活	ごみステーション(ご)、広報掲示板(掲)、公衆電話(公)、

【危険なもの】

No	分類	具体例
1	壊れそうなもの 落ちる、飛んでいく	空き家、ブロック塀、落ちそうな看板、飛びそうなトタン屋根、古いコンクリート構造物
2	道路	狭小道路、行き止まり、トンネル、古い歩道橋
3	水辺、低湿地	川、沼、池、ため池、湿地帯、用水路
4	傾斜地	がけ、急傾斜地、岩が落ちてきそうな所
5	暗がり	暗いところ、孤立したところ

【その他】

No	分類	具体例
1	字界	地区と地区の境界、行政区の境
2	災害履歴	過去に災害があった所